

「ぶらんこ復活」授業案

授業の目標

- ①自分たちでルールをつくろう
- ②ルールを作るときに大切な視点
- ③出来上がったルールを検証しよう

段階	主な発問・学習活動 児童から予想される発言	指導上の留意点
導入 (5分)	○(『私たちの道徳』120ページ、121ページの資料を見て)身の回りにどんなきまりがありますか	・学校や地域では、いろいろなきまりがあることを簡単に確認して、展開につなげる
展開 1 (15分)	「ぶらんこ復活」の122ページ9行目まで(「…まだ、心配です。」)を読んで ◎恵さんの気持ちを考えてみよう ○恵さんはどんな気持ちになりましたか ・楽しく遊びたい！ ○校長先生はどんな気持ちになりましたか ・安全に遊ばせたい →どうしたらよいのだろうか(さくを作ったけれどそれだけで大丈夫かな)。 ・さくを気にしない、無視する人もでてくる →ルールが必要だ ◎ルールは誰が決めるのだろうか ・先生が決めていい →先生が理不尽なルールを決めてもよいだろうか 例 放課後の5分だけ、先生がいるので、その時だけ使用可 →先生がいなくとも“安全”にできるルールが必要だ	・どのような状況か共通理解を得た上で発問をする ・ルールの必要性に気付くように誘導していく
展開 2 (20分)	「ぶらんこ復活」の残りの部分(122ページ10行目から123ページ)を読んで ◎ぶらんこを復活させるためのルールをつくろう けがをしないでみんなで楽しく遊ぶには、どういうルールにしていけばよいのでしょうか	・教師側(教師が決めた)の決めた理不尽なルールを提示するが、それぞれの学校の事情に即した理不尽なルールでよい ・ルール作りの目的をしっかりと押された上で、以下の発問等で、児童にルール作りをしてもらおう ・ルールの中には、「けがをしない」(危険防止)のためのものと、「みんなで楽しく遊ぶ」(公正・平等)のためのものがあることを理解してもらう ・罰則のルールが提案されたら、目的に立ち返って、そのようなルールが果たして必要かどうかを考

	<p>「みんなでルールを作りましたね。では、そのルールを本当に守れるかな？」</p> <p>○学校生活や学級、地域のことを振り返って、どのようなルール(きまり)があるのか、どうしてそのようなルール(きまり)があるのだろうか</p> <p>例 廊下は走らずに歩く(けがをしないため) 遊具の使い方、しまい方(継続的にみんなが使える(楽しく遊べる)よう にするため)</p> <p>◎(まとめとして) ルールというものは、みんなが安全に生活したり、楽しく遊ぶことにつながっている</p>	<p>えてもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上のことから、ルールを作っていくときに、どういう点に中止しなければならないのかを理解してもらう ・ルールの内容を検証していくことで、ルールを決める際に、ルールが適正で守られルールでなければならぬことを理解してもらう
まとめ (5分)		